



海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第 1680 回例会

平成 23 年 11 月 14 日(月)

12:30～ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング

「我等の生業」

3. ゲスト紹介

和歌山ダルク代表 和高 優紀様

4. 出席報告

会員総数 60 名 出席者数 33 名

出席率 55.00% 前回修正出席率 68.33%

5. 会長スピーチ

会長 田村 健治 君

皆さん、今日は。今年も早いもので、年末まで一ヵ月半余りとなりました。

先ず最初に、恒例の年次総会は 12 月 5 日開催予定ですが、理事・役員を選ぶ指名委員会をクラブ細則第 3 条第 1 節に基づき、当クラブの慣例に従って、理事会メンバーをもって指名委員会とさせていただきます。ありがとうございます。

先週皆さんに、今日 TPP の話をすると予告しましたが、いざ勉強してみると、これは将来の日本を左右する重大な問題だと思われました。そして皆が国にお任せではなく、当事者となって考えなければならない事だと思いました。今、世論は真つ二つに分かれています。即ち、TPP 協定の交渉の席に日本が座るかどうかが、それに対する推進派と反対派が対立しています。そして今ハワイで APEC が開催され、そこで日本の野田首相は交渉の席に着きました。

ある人は言っています。アメリカの日本に対する TPP 参加の呼びかけは、いわば”平成の黒船”だと。本当にそっくりですね。江戸時代末期、ペルーが黒船に乗って来日し開国を迫りました。それに反対した尊皇攘夷派は抵抗しましたが、結局不平等な条約を結んでしまいました。今の日本の繁栄ぶりを見れば、結果的には良かったのかも知れませんが、ペルーが来ずに、あのまま鎖国が続いていたなら、日本はどうなったで

ようかね。

まだマスコミではあまり報道されていませんが、TPP にくっついている ISD 条項というものが重大問題なのです。これは外国企業が損害を被った時、賠償金を請求する裁判を起こすことが出来、その際日本の法律がまったく通用しないことになるのです。そこで今日は、TPP に参加すれば日本の医療はどうなるか、要点だけをお話します。

先ず第一に、ほとんど全国民が入っている健康保険の制度が危うくなることです。なぜなら、自由貿易ですから、外国から外資系の保険会社や薬メーカー、または株式会社の病院まで入ってきます。これらはきっと営利主義に走りますから、儲かることしかしない様になります。そうすると、どういう事が起こるかと言いますと、保険が利かない医療が増え、安い給料で働いている公的病院の医師や看護師はそちらへ流れ、田舎では病院が益々減っていくでしょう。そんな事になっては大変ですから、国は何らかの規制を設けようとするでしょう。そこで ISD 条項が登場してきます。企業は訴訟を起こして賠償金を勝ち取る仕組みになっているのです。だから日本医師会は反対派に回っています。まだまだ色々あるのですが、今日はこのぐらいにしておきます。

6. 幹事報告

幹事 山畑 弥生 君

○例会臨時変更のお知らせ

岩出 RC 12 月 8 日(木) → 12 月 3 日(土)

18:30～

ホテル日航大阪 韓国・中文 RC

12 月 15 日(木) → 12 月 15 日(木)

18:30～

岩出市商工会館 2F

○休会のお知らせ

粉河 RC 11 月 23 日(水)

岩出 RC 12 月 8 日(木)



四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか
- ②みんなに公平か
- ③好意と友情を深められるか
- ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長: 田村 健治 幹事: 山畑 弥生 SAA: 岩井 克次

<http://www.kainaneast-rc.jp>

E-mail: info@kainaneast-rc.jp

7. ゲスト卓話

昨年、卓話にお邪魔させて頂き、その後すぐに、新垣先生・大谷さん・山名さん・魚谷先生・阪口さんより、ダルクに対して直接的な御支援を賜りました。こんなに良くして頂いた事は初めてで、大変驚きました。又、海南東ロータリークラブの皆様より年末に頂いた暖房器具は有難かったです。阪口さんは、昨年末より古民家の再生を主に、色々なご支援を賜り、今では訪問して下さる日を皆、楽しみにしています。お陰様で、ハンドメイドの茶室まで設備されたダルクになりました。心より感謝申し上げます。



和歌山の薬物問題について、和歌山県は薬事犯検挙数が全国で四位です。ずっと上位を占めているにも関わらず、和歌山県がどのような対策をなされているのかが見えて来ません。私どもは民間の貧しい薬物依存症者とその家族の回復支援をおこなっているダルクという組織に属する和歌山ダルクですが、相談件数が年間120件ほどあります。薬物問題に対して私達も県内で取り組まれている対策チームと横の繋がりを持ちたいと望んでいます。現在、薬物問題に関わりを持っている機関のサテライト的な役割を担い、具体的な治療のお手伝いなどの下請けを無償で続けています。ダルクの負担が大きく大変です。薬物依存症とはそもそも生涯治療が必要な難病です。和歌山には専門の病院もクリニックありません。相談に来られる人は、司法の取り締まりには何度もあっていますが、治療を受けた経験が無く、高齢になっています。その様な方には他県の医療福祉が進んでいる県にあるダルクに入所を進めています。前回も話題に触れましたが学校を中退する子供達が多く、薬物と出会ってしまい、売人になる若者もいます。薬物の問題は、教育の問題だとも感じています。学校などにも予防教育として講演に行きますが、薬物の種類や後遺症などの話はあまり触れません。なぜなら生き方の話をするべきだと考えています。子供達は映画・アニメ・音楽などを通して、薬物には詳しく、あまり説明がいきません。ですから薬物と実際に出会う前に、倫理や哲学やマナーの問題と、助けを求める勇気が必要なもので、それらを改めて若者に問う授業をおこなっています。薬物乱用は自己への虐待で、自分自身をどうしてもよい者として扱い始める第一歩となります。我々は経験に基づいた話をし、若者達に今の生き方と重ねて比べてもらうようにします。私が思うには、子供達ともっと理論的にコミュニケーションを取る様に、まずは大人が変わらないといけないと思っています。できるだけ教育の現場にも摂局的に出向いて行きたいと思います。活動を維持していくために運営を安定させたいと願います。この度の皆様のご支援には本当に感謝申し上げます。有難く思っています。今後とも皆様にはこの活動を見守って頂きたく存じます。有難うございました。

8. 閉会点鐘

次回例会

第1679回例会 23年11月21日(月)

海南商工会議所 4F 12:30～

会員卓話

前田 克仁君 三木 正博君 倉橋 利徳君



ニコニコ・BOX

山畑 弥生君

母の葬儀にお参り頂きありがとうございました。上野山さん 幹事代理ありがとうございました。

魚谷 幸司君

和高さん、卓話ありがとう



国際ロータリー ニュース

コーヒーの販売収益で人道奉仕



ロータリー財団の元奨学生が、米国内のロータリー・クラブにフェアトレード（公正貿易）のコーヒーを販売し、その収益金で発展途上国にきれいな水を届けています。この基金によって実現したプロジェクトでタンザニアに水ポンプが設置されました。「水と衛生設備」はロータリー財団の重点分野の一つです。写真提供：Five for Water 米国（ミズーリ州）のロータリアンで、1979-80年度のロータリー奨学生として英国に留学した経験を持つビル・プロストさんは、コーヒー原産国にきれいな水をもたらすために使途推奨冠名基金を設置し、「Five for Water」プロジェクトを始めました。Green Mountain Coffee社と提携し、このコーヒーを購入して地域社会で販売するように、米国内のクラブに呼びかけたプロストさん。「このようなプロジェクトは、会員数の多いクラブも少ないクラブも、いつでも実施できます」と話します。

コーヒーの収益わずか1年前に始まったこのプロジェクトですが、既に米国内の300以上のクラブが参加し、184,000ドル近くの純収益を上げ、10カ国、5万人以上の人々にきれいな水を提供してきました。世界保健機関（WHO）によると、毎年、200万人以上の人々が水感染による疾病で命を落とし、10億人以上がきれいな水のない生活をしています。「ロータリアンとして、何かしなければ、という使命感を感じた」と言うプロストさんは、海外の協力者も探し、ロータリー財団のマッチング・グラントも申請して、学校や孤児院、診療所などに井戸を設置しました。今後も、きれいな水が必要とされているところがあれば、協力者を見つけて活動していきたいと話しています。